

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

学校創立 125 年を超える伝統ある本校の役割は、生徒や保護者・地域・社会の期待に応えるため、生徒の第一に希望する進路の実現を図るとともに、地域・社会に有為で未来を拓きグローバルに活躍するために求められる「確かな学力」と「幅広い資質・能力」、「豊かな感性」を育成することである。 そのため、「グローバルリーダーズ・ハイスクール (GLHS)」、「スーパーサイエンス・ハイスクール (SSH)」としての責務のもと、生徒にとって有意義で充実した教育活動の展開を追求していく。 ■ 育てたい生徒像： ○チャレンジ精神と粘り強さを発揮し、主体的に学び、成長し、自らの進路を切り拓こうとする生徒 ○豊かな人間性とリーダーとして求められる幅広い資質・能力を育み、将来、グローバルに活躍する生徒 ■ 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校」をめざす

2 中期的目標

1 「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成

- (1) 学習習慣の定着と学習時間の確保を徹底し、生徒の持つ「学力」を最大限に引き出す。
- ア 講習の実施や自習室の開放など、土曜日の時間帯に生徒が主体的に学ぶ環境を整え、土曜日に学習する習慣を身に付けさせる。
- イ 学習習慣の定着と時間管理能力を育成することにより、学習時間の確保を徹底させる。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を70%以上に。(R6 66.1%)
- ※ 学力生活実態調査による1,2年生の「学習時間 (平日、休日)」の平均を平日 1 時間30分、休日 3 時間以上に。
- (2) GLHS、SSHとして教育活動の充実に取り組み、生徒の「幅広い資質・能力」の向上を図る。
- ア 課題研究の充実に図り、生徒の「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」、「協働して取り組む力」などを育成する。
- イ 外部と連携した取り組みや地域と協働した取り組みなどをすすめ、GLHSやSSH等の活動をさらに深化させる。
- ウ 「グローバルリーダー養成プログラム」など、海外の大学生等との交流を通じて、国際的な視野を広げるとともに、「英語による表現力」を育成する。
- ※ SSH アンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を 65%以上に。(R4 63.7%, R5 61.5%、R6 66.3%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「岸和田高校では特色ある教育活動が行われている」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 92.7%, R5 94.3%, R6 95.5%)
- (3) 学校として組織的に、また、教員一人ひとりが授業力の向上に取り組む。
- ア 1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、生徒の「確かな学力」の育成をめざす。
- イ 教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき「授業振り返りシート」を作成し、自らの取り組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 89.0%, R5 90.3%, R6 93.8%)
- ※ 授業アンケート項目 8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目 9「知識や技能が身に付いた」の平均 3.20以上を維持。(R4 3.30, R5 3.34, R6 3.33)

2 「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」

- (1) GLHS、SSH等の活動を通して、生徒が高い志を持ち、自らの将来像について主体的に考えるよう働きかける。
- ア 大学・研究機関等への訪問等を通して、生徒が視野を広げ、学習意欲を高めることにより、「主体的に学ぶ力」を育む。
- イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施により、生徒が高い志を持ち、早い段階で自らがめざす将来像を描けるようにする。
- ※ 大学・研究機関等への訪問、各種講演や研修、実習など、それぞれの取り組みに対する生徒の肯定的評価を 90%以上に。
- (2) 第一に希望する進路の実現をめざし、生徒が高い志を持ち続けることができるよう指導・支援する。
- ア 学力診断や模擬試験等を定期的実施し、生徒が自らの実力を把握するとともに、教員がその結果に基づき適切な進路指導を行う。
- イ 「岸高スーパークラス」、「岸高ハイレベル講習」など、高い志をもった生徒が互いに切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整える。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「将来の進路や職業などについて適切な指導」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 94.1%, R5 94.5%, R6 95.5%)
- ※ 国公立大学進学者の割合を50%以上に。(R3 -R4 で44.8%, R4 -R5 で45.7%, R5 -R6 で50.5%)

3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備

- (1) 「文武両道」をめざし、学習と部活動・学校行事の両立への意識を高める。また、部活動において「リーダーとしての資質・能力」を育む。
- ア 生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実に図り、生徒の「豊かな感性」を育む。
- イ 部活動を奨励するとともに、部活動においてリーダーとしての資質・能力を育む。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 93.1%, R5 92.8%, R6 95.6%)
- (2) 生徒一人ひとりが安全で安心して学校生活を送ることができるよう、教育環境の整備に努める。
- ア 社会人としてのマナーを身に付け、自他の人権を尊重する人権感覚を醸成するなど、「高い人間性」を育む。
- イ 生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。
- ウ 教育相談室（教育相談・支援教育）の機能の充実に図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R4 81.4%, R5 84.7%, R6 85.1%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 90.9%, R5 92.0%, R6 93.3%)
- ※ (生徒向け) 学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価70%以上を維持。(R4 64.4%, R5 71.8%, R6 72.3%)
- (3) 学校として組織的に校務運営の効率化を推進し、教員一人ひとりが教員としての資質・能力を高めるとともに、生徒と向き合う時間を確保する。
- ア 各分掌、各学年が行う行事や取り組みなどについて、課題を洗い出すとともに、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。
- イ 各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間の縮減を図る。
- ウ 全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理に努める。
- ※ (教職員向け) 学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価80%以上を維持。(R4 83.9%, R5 80.0%, R6 83.3%)
- ※ 時間外在校等時間が月当たり80時間以上となる教員の人数を前年度より減少させる。(12月末までの月当たり80時間以上：R4 5人, R5 5人, R6 5人)

4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上

- (1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果などを積極的に広く発信する。
- ア 様々な機会を通じて、また、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。
- イ 学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校所蔵の資料のデジタル版「岸コレ」などを発信する。
- ※ (保護者向け) 学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価90%以上を維持。(R4 91.9%, R5 93.8%, R6 92.3%)
- ※ 学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数を前年度より増加させる。(12月末までのアクセス数：R4 11,000人, R5 7,827人, R6 7,895人)
- (2) 地域の学校や団体等との連携を密にし、地域を中心とした社会参画意識の向上を図る。
- ア 地域の幼稚園や小学校等との交流などを行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。
- イ 地域の公的機関やNPO等と連携した取り組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。
- ※ 生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。(R4 5本, R5 5本, R6 7本)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1「確かな学力」と「幅広い資質・能力」の育成	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア 「土曜学習タイム」実施による土曜日の学習習慣の定着 イ 学習習慣の定着と時間管理能力の育成 (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア 課題研究の充実 イ GLHSやSSHの活動のさらなる深化 (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア 1人1台端末を活用した授業改善の取組み イ 教員一人ひとりによる「授業振り返りシート」を活用した授業改善の取組み	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・土曜日の時間帯に講習の実施や自習室の開放など、生徒が主体的に学ぶ環境を整えることで、土曜日に学習する意識を高め、習慣を身に付けさせる。 イ ・学習習慣の定着と時間管理能力の育成を図ることで、学習時間の確保を徹底させる。 (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・課題研究を「縦割り型課題研究」及び「文理融合型課題研究」として充実させ、「思考力・判断力・表現力」、「課題発見・解決能力」などの育成を図る。 イ ・外部との連携や地域での協働等により、GLHS やSSH の活動をさらに深化させる。 (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・1人1台端末の活用をすすめながら、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組む。 イ ・教員一人ひとりが授業アンケート結果に基づき、課題の洗い出し、改善方策の策定、成果検証を行う「授業振り返りシート」を作成し、自らの取組みの成果と課題を踏まえ、さらなる授業改善に取り組む。	(1) 学習習慣の定着と学習時間の確保 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断における「土曜日を学習時間として活用」の肯定的評価を70％以上に。[66.1％] イ ・学力生活実態調査による1,2年生の「学習時間(平日、休日)」の平均を平日1時間30分、休日3時間以上に。[新規] (2) GLHS、SSHとしての教育活動の充実 ア ・SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価を65%以上。[66.3％] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「特色ある教育活動がある」の肯定的評価 90％以上を維持。[95.5％] (3) 学校としての組織的な授業力の向上に向けた取組み ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価90％以上を維持。[93.8％] イ ・授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価 3.30以上を維持。[3.33]	
2「高い志」の育成と「第一希望の進路実現」	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア 大学・研究機関等への訪問の実施 イ 各種講演や研修、実習などの計画的な実施 (2) 第一に希望する進路の実現 ア 進路指導の充実 イ 「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」の実施	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・京都大学キャンパスガイドや大阪大学ツアー、東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーなどの参加を奨励する。 イ ・卒業生による職業講話や大学教授等の出前講義などを実施し、生徒に将来について考える機会を与える。 (2) 第一に希望する進路の実現 ア ・学力診断や模擬試験等の結果を踏まえた適切な進路指導を行う。また、保護者に対しても、進路説明会による進路等に関する丁寧な情報発信と懇談などによる相談体制の構築を図る。 イ ・「岸高ハイレベル講習」、「岸高スーパークラス」など、高い志をもった生徒が切磋琢磨しながら主体的に学べる環境を整備する。	(1) 高い志を持ち、自らの将来像を描く ア ・東京方面大学キャンパスツアー、SSH サイエンスツアーへの参加生徒の肯定的評価 95％以上を維持。[100％] イ ・卒業生による職業講話、大学教授等の出前講義への参加生徒の肯定的評価 90％以上を維持。[いずれも 90％以上] (2) 第一に希望する進路の実現 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定的評価 90％以上を維持。[95.5％] ・国公立大学進学者の割合を 50％以上に。[R5-R6で50.5％] イ ・「岸高ハイレベル講習」について、生徒アンケート「受講してよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに 80％以上に。[72.9％、72.9％] ・「岸高スーパークラス」について、生徒アンケート「クラスに入ってよかった」、「実力がついた」の肯定的評価ともに 90％を維持。[96.9％、90.7％]	

府立岸和田高等学校

3 「豊かな感性」「高い人間性」の育成と「安全で安心な教育環境」の整備	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア 生徒が主体的に取り組むことができる活動の充実 イ 部活動の奨励と部活動におけるリーダーとしての資質・能力の育成 (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア 社会人としてのマナー、人権感覚の育成 イ 安心して学ぶことができる学習環境づくり ウ 教育相談室(教育相談・支援教育)の機能の充実 (3) 校務運営の効率化の推進 ア 各分掌、各学年が行った取組みに関する検証と業務改善 イ 「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日の設定 ウ 全校一斉定時退庁日の徹底	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・校外学習、文化祭、体育祭、合唱コンクールなど、生徒が主体的に、かつ、共感・協働の気持ちを持って取り組める活動の充実を図る。 イ ・部活動員を対象とした研修を実施する。 (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・社会人としてのマナーや自他の人権を尊重する人権感覚など、「高い人間性」を育む。 イ ・生徒が互いに思いやりの気持ちを持ち、信頼しあいながら、安心して学ぶことができる学習環境づくりに努める。 ウ ・教育相談室の機能の充実を図るため、支援を必要とする生徒のためのメンタルサポート体制を確立する。 (3) 校務運営の効率化の推進 ア ・各分掌、各学年が行った取組みについて、成果を検証しながら見直しを行い、業務改善を図る。 イ ・各部活動が「部活動に係る活動方針」に基づく適切な休養日を設定することで、時間外在校等時間を縮減する。 ウ ・全校一斉定時退庁日を徹底し、教職員一人ひとりが業務に対する意識改革をすすめ、勤務時間管理と健康管理を行う。	(1) 学習と部活動等の両立への意識向上とリーダーの育成 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「学校行事が盛んで、生徒は楽しく参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.9%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価 90%以上を維持。[95.6%] ・部活動員対象の研修を1回以上実施[1回実施] (2) 安全で安心な教育環境の整備 ア ・(生徒向け)学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[85.1%] イ ・(生徒向け)学校教育自己診断「困っていることがあれば真剣に対応してくれる」の肯定的評価 90%以上を維持。[93.3%] ウ ・(生徒向け)学校教育自己診断「保健室や相談室で気軽に相談できる」の肯定的評価 70%以上を維持。[72.3%] (3) 校務運営の効率化の推進 ア ・(教職員向け)学校教育自己診断「教育活動の評価を行い次年度の計画に活かしている」の肯定的評価 80%以上を維持。[83.3%] イ ・時間外在校等時間が月当たり 80 時間以上となる教員(12 月末まで)の人数を前年度より減少させる。[5人] ウ ・時間外在校等時間の月当たり時間数(12 月末まで)の全教員平均を前年度より5%削減させる。[40.0]	
4 「社会に開かれた教育課程」の実現と「社会参画意識」の向上	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア 様々な機会、様々な手段による教育活動の積極的な発信 イ 学校Webページによる探究学習の成果、岸和田高校教育コレクションの発信	(1) GLHS、SSH等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・様々な機会、学校Webページやメールサービス、ブログなど様々な手段により教育活動の積極的な発信に努める。 イ ・学校Webページ「岸高 ’e’ 博物館」により、課題研究における論文などの成果に加え、本校が所蔵する資料のデジタル版「岸コレ」などを継続して発信する。	(1) GLHS、SSH 等の教育活動やその成果の積極的な発信 ア ・(保護者向け)学校教育自己診断「教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定的評価 90%以上を維持。[92.3%] イ ・学校 Web ページ「岸高 ’e’ 博物館」へのアクセス数(12 月末まで)を前年度より増加させる。[7,895 人]	
	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア 地域の幼稚園や小学校等との交流による社会参画意識の向上 イ 地域の公的機関やNPO等と連携した地域の課題解決や発展に貢献できる取組	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を行うことにより、生徒の社会参画意識を高める。 イ ・地域の公的機関やNPO等と連携した取組みをすすめ、生徒が地域の課題解決や発展に貢献しようとする意識を高める。	(2) 地域を中心とした社会参画意識の向上 ア ・地域の幼稚園や小学校等との交流を2回以上実施。[2回] イ ・生徒が地域の課題をテーマとした課題研究に取り組む。2年生文理課題研究において5本以上をめざす。[7本]	